

見つめる目

しなやかな心

医療を支える 看護の手

看護部だより

2015 年

01 月号

第 285 号

特定医療法人衆済会
増子記念病院
看護部
部長 上村 志磨子
(認定看護管理者)

新年明けましておめでとうございます

ハード面もソフト面も「変革！」の年

看護部長 上村志磨子

新年あけましておめでとうございます。

今年の干支は、羊です。職員の 8.3%、12 人に一人が、今年の年男・年女ということになります。ある干支占いによると羊年の性格は、従順で温和、情に厚く親切、正直で曲がったことが嫌い。一見消極的に見えるけれども芯が強く、地道な忍耐力も持っている。気配りや世の中の動きを先取りする才能を持っている。また、自己主張することが苦手で才能が埋もれがちだが、よき理解者に恵まれれば大成する。とありました。羊年のあなた、当たっていますか？

1 はじめに

さて、平成 27 年がスタートしました。

皆さんにとって昨年は、どのような 1 年でしたか？充実した良い 1 年だったでしょうか？多くの方が、年初めに目標を立てたりしますが達成できましたか？

2 1 年の目標

私は、1 年前のこの看護部だよりで目標の一つに「時間管理」を挙げました。つついまだ期限があるからとダラダラにしてきたことを、意識を変え「いましかないでしょう」という精神で「いま」をキーワードに取り組みもうと決意したはずでした。しかし、1 年終わってみると無駄に時間だけを使い結局期限ギリギリということが多かったように思います。

時間や期限の設定をしても、本来の自分の行動パターンを見直さなかったためにいつもと同じ結果となり私の目指した「時間管理」ができませんでした。

3 行動パターンを見直す

皆さんもご存知のように「時間管理」とは、時間そのものを管理するのではなく、自分がどういった時間の使い方をしているのか、自分の行動について管理することです。

まず自分の性格や行動パターンを客観的に振り返ってみてその特徴を知ることです。そしてその行動パターンに無駄があればそれを改善し、最適と思える計画を立てそれに従って行動を起こす。そう考えると、私の行動パターンには無駄な点があるのがよくわかります。今年はこの点を見直し再度取り組んでいこうと考えています。

4 ハード面の変化

この 1 年間で病院のハード面は、大きく変わりました。現在は、1 階玄関フロア、2 階リハビリステーション室となる西館の工事中であり、新しい建物に変化していくことに大変ワクワクいたします。見上げると自然と笑みがこぼれます。

この 1 年間で、新築・増改築工事関係の繰り返し引越しやそれに合わせた病棟チーム編成だけでなく、病院にとっての大きなイベントごとたくさんありました。

新 1 号館の内覧会や 2 年ぶりに開催した増子健康フェスタ、そして病院機能評価受審などなど本当に多忙な 1 年でした。

大きな事故、トラブルがなく今日を迎えることができているのは、職員一人ひとりの理解と協力があったからこそであり、皆さんに感謝しています。そして間もなく皆さんの意見や要望を取り入れた新たな増子記念病院が、完成いたします。病院としてのハード面は、大きく変革いたしました。

5 ソフト面の変革を

合わせて、ソフト面の変革も必要です。

すでにその取り組みは、始まっております。肝・消化器、腎臓病としての再構築や体制の見直しなどなど、そのためのいくつかの小委員会が発足し活動を始めています。この流れの中で私たち看護部、看護職に求められていることを明確にしてしっかりと取り組んでいこうと考えています。そのためには、看護部職員皆さんのさらなる看護力が必要となります。

6 おわりに

「やらされ感」ではなく、自らが率先して「患者とその家族、職員とその家族のしあわせのために」という病院理念と「見つめる目、しなやかな心、医療を支える看護の手」という看護部理念に基づいた看護を提供していきましょう。

皆さん一人ひとりにとって充実した素晴らしい 1 年となりますようお願いしております。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

学生コーナー

<新しい環境で…>

4 月から最終学年になります！

4 階病棟 学生 田川 優粋

私が名古屋に来て、早いもので 3 年目となりました。

はじめは分からない事だらけで、挙動不審だった私ですが気が付くと職場の環境にも慣れ、後輩に教える立場になっていました。

また、6 月から 4 階の工事、9 月からは 3 階の工事と 2 病棟になるための準備がはじまりました。

3 階の工事の時は 4 階で 3 階の看護師さんや学生と一緒に仕事をさせていただきました。色々と戸惑うことがたくさんあり、自分の手際の悪さを実感しました。

私は昔から要領が良い方ではなく、人が一回で出来ることが数回しないと出来ないことが多くあります。4 階という環境に慣れていただけで、環境が変わると自分は何も出来ないのではないか、と何回も悩みました。

しかし、環境が変わって働くということはデメリットだけでなくメリットもありました。それは、皆さんの働く姿を見て、自分に足りないところを真似して補うことが出来るという事です。「こういう時はこうすれば良いのか」など人の良いところを吸収することで、少しは成長できたのではないかと思います。

また、今まで関わったことのない名前も

知らないような看護師さんに関わることが出来て、勝手に描いていた他病棟のイメージが一変しました。

そして、11 月になり 2 病棟になりました。2 階の看護師さんが加わり、新しい病棟・新しい増子記念病院に生まれ変わっています。私が入社したときよりも更に大きく綺麗になっており、今後もっとより良い病院になっていくと思うので楽しみです。

もうすぐ 2015 年になろうとしています。4 月からは最終学年になり、国家試験のことも頭に入れていかないとはいけません。また、どのような看護師になりどのような看護を行っていきたいか具体的に自分の将来のことに目を向けなければなりません。5 月からは実習の毎日で、肉体的にも精神的にも辛い日々がやってくると思いますが、看護師になろうと思った動機を忘れずにこれからも頑張っていきたいです。

以上

部署報告：第 2 透析室

金子愛美 上村博美 西村千晴

1 はじめに

平成 27 年度より本院透析室のベッド数の増床に伴い、現第 2 透析室は新館へ移動し 23 床から 46 床へ増床となる。業務内容や第 2 透析室の状況と今後の課題について報告する。

2 2 年前との比較

平成 24 年 12 月と現在の比較をする。

・平成 26 年 12 月現在

《看護師》14 名

（内進学生 1 名、産休 2 名）

《臨床工学技士》2 名

《ベッド数》23 床

《透析シフト》月水金・火木土 朝・昼

平成 23 年 11 月より第 2 透析室で月水金のみオーバーナイト透析を行っている。

・平成 24 年 12 月

《看護師》10 名（内進学生 2 名）

《臨床工学技士》4 名

《ベッド数》27 床

《透析シフト》月水金 朝・昼・夜

火木土 朝・昼

3 現状

現在の第 2 透析室は朝・昼の 2 シフトであり、昼勤務は看護師 3 名体制でそのうちの 1 名は第 1 透析室配属の看護師である。準夜勤務は、第 2 透析室からは看護師 2 名が第 1 透析室での勤務にあたっている。業務については、それぞれの部署で違いがあり、他部署で勤務を始めた頃は患者への対応でトラブルになることもみられていた。また、他部署の看護師に対する患者の不安の声も上がっていた。

平成 26 年 4 月に進学生 1 名、9 月に透析看護未経験の看護師が 1 名配属となる。以前の新人教育は、4 時間透析を回すという『業務』が円滑に行えるよう、定時の血圧測定や終了時薬剤の準備などの機能別で業務を行うことが多かったため正しい指示受けやアセスメントができていないことがあった。

また、現任教育委員会や透析室教育委員会に参加する中でリーダーシップをとれる看護師が他部署と比べて少ないと感じていた。

リーダー業務では、1 勤務帯で 2～3 名の医師の回診が行われる日もあり、リーダーはほぼ 1 人で対応を行っていた。そのため急な指示変更や処置が発生した場合には対応できる看護師が少ないためリーダーの負担が多くなっていった。リーダーという司令塔がいることで業務としては円滑に行われているように見えたが、看護の内容は充実していなかったように感じることもあった。カルテには、透析中のことしか記載していないため（例えば、血圧下降やシャントトラブルなど）、現在の患者情報や他施設での受診状況など特定の看護師に聞かないと知ることができないことが多かった。穿刺についても“難しい”“何らかの理由で針を刺しに行けない”“この看護師（技士）じゃないとダメ”といった患者の訴えと、スタッフもそこから一步踏み込めないといった状況がみられていた。

そのため、スタッフを固定した穿刺が他部署と比べて多く存在していた。職場の環境として穿刺をフォローする体制が備わっていないことや、患者と看護師、看護師と看護師のコミュニケーション不足を感じていた。これらのことから、見えてきた今後の課題について考えたことを以下にまとめる。

4 現状から見えてきた課題

- 1) 情報共有の重要性
- 2) リーダーシップの発揮

5 取り組み 1

1) 情報共有の重要性

他部署勤務での対応は、透析室で看護師・技士を含めたミーティングを活用し物品の使用法や業務に関することの統一化を図った。

例えば、「透析方法」の書式の統一や、患者によって独自の方法があれば必ず「透析方法」に記載し初対面でもトラブルが起きないように処置方法を詳細に記載するようになった。

その他にも検討事項はあるが、教育委員会やスタッフミーティングで話し合った結果をそれぞれの部署内で取り入れ改善に努めている。

第 2 透析室としてもカルテに詳細な情報の記載をすること、また透析チャートの申し送り欄を活用するよう声かけを行った。

ミーティングでの改善策としては、患者の情報をスタッフ全員が共有できるよう働きかけている。

「固定穿刺」では、コミュニケーションにより患者と信頼関係を築き、患者へ十分な説明を行った。誰もが刺せる血管であるということを理解して頂いた上で、他のスタッフが穿刺を実施できるように介入した。

医療安全の文献の中でもコミュニケーションの第一の目的は、「患者に安全で適切な医療・看護を提供するために必要な情報を適切に伝達し、共有することである」と記述されている。他部署勤務や患者との信頼関係を築くためにも、患者とスタッフ間同士はもち

ろん、スタッフ間のコミュニケーションも重要な課題の一つとなる。

6 取り組み 2

2) リーダーシップの発揮

平成 26 年より、3 名のリーダー育成が始まり、夏にはさらに第 1、第 3 透析室よりリーダーが出来るスタッフが配属された。

「看護管理」の中でも「リーダーシップ」とは、目的の達成を目指しての動機づけ、導き、指導、説得することであり、インフォーマルなもの、個人行動に起因したものである」と記述されている。

現在は、頼れる熟練スタッフも増え、リーダーだけに業務が偏らないように個人が判断し行動しながら看護師間の協力体制が円滑にできるように努めている。個人の責任感や業務に対する意識が変化したのではないかと考える。

また、看護師間の協力体制が少しずつ改善されたことにより新人教育とリーダー育成に時間を設けることが可能となった。業務を回すだけの機能別な看護ではなく、看護チームとしてのリーダーシップを個人が自主的に考え、行動し、判断能力を高められるような教育を今後、更に深める必要がある。

7 おわりに

一人一人の看護師が、判断能力やアセスメント能力を高めることでリーダーでなくてもすぐに対処できるよう行動することが大切だと実感できた。それにより、リーダーの負担軽減も図ることが可能となる。来年度からは、ベッド数も増床し、患者の把握も今以上に必要とされる。今回の報告を

踏まえ、部署内のコミュニケーションや教育、個人の能力を更に深めることで、円滑かつ安全な医療を患者に提供できるよう努めていきたい。

以上

参考・引用文献

- 1) 川村治子：医療安全 - 看護の統合と実施② - ，第 2 版，医学書院，P190
- 2) 上泉和子ら：看護管理 - 看護の統合と実施① - ，第 8 版，医学書院，P192

「看護職のワークライフバランス推進の取り組みについて」読んで

第 3 透析室 楯 知里

今回、看護職の「ワークライフバランス」推進調査をした事で、看護職が普段どのような思いで働いているかが明らかにされた。病院は、看護師を育てようと、支援が多く能力向上へつながり、自分たちの気持ちも向上していきます。その中で困ったことがあると、上司へ話ができてアドバイスをもらえるので、つまづく時も長く続かないと思います。しかし仕事が忙しい日々が続く、体力的にダメージがあるとモチベーションも下がってしまうため、スタッフが健康で無理のない労働環境が平等にあることが理想だと思いました。

「今後の取り組み」に書いてあるように、私たちは病院組織の中の一員であり、一人一人がいる事で病院が成り立っていくのだと思います。

職場の環境作りはチームワークだと思うので、お互いが協力しあい、気遣いながら仕事をして行くことが必要です。

笑顔の職員がいるからこそ患者さんたちも安心し過ごしやすい病院生活や治療を受けられることができると思います。

以上

連載：がん闘病記 ⑨

えっ！ステージⅣ？

手術室 打田潤子



24 もう1つの楽しみ

本を読むようになったのは小学校の高学年になってからだ。小、中学校の図書室の推理小説を片っ端から読んでいたことを思い出す。

特に中、高校は、車酔いの為、修学旅行に参加できなかったことで、修学旅行というと図書室が思い浮かぶ。何故なら、修学旅行に参加しなかった生徒は、その間午前中だけ登校し、図書室学習をしなければならなかったからだ。

それと何故か桜が風に舞い散る風景を思い出す。これは、当時住んでいた家が借家だったが、町の集議所として建てられ、建物の裏庭にはお稲荷さんが祀られ、春には梅や桜の花が咲き皐の赤い色に彩られて、なかなか風情のある裏庭があった。図書室で借りる本がなくなると、姉が買った様々な小説家の本を読み漁った。

試験中は試験勉強をせずよく本を読んだ。看護学校に入ってから、子供が大きくなるまではあまり読まなくなった。3歳くらいから18歳まで住んでいた家は今では道路になっている。

不思議な事に、夢の中の家は今は影も形もないのにこの家が出てくる。

先日も昔の家の夢を見た。表の庭先がちよっと変わり隣家の住人も変わっていた。また本をよく読むようになったのは、離婚してからだろうか。

一人になるときと時間が有り余ると思いついて読書会に入った。さらに本をよく読むようになったのは、大学に入ってからだ。「地方自治法」の先生から夏休みは、「竜馬が行く」を読むことを薦められ、一巻から全部読んだ。この頃から読んだ本が竹の子のように積み始めた。微妙なバランスで置いていくのでちよっと崩れると、全部の山が崩れる。あまりにも本をため過ぎ、60歳の還暦祝いには子供たちに、一杯入る本棚を買ってもらった。今は時折整理はするが、机の上の本はスグたまって行く。

大学に入ってから昨年手術するまでは、毎日のように「ミスド」で勉強するか本を読んでいた。手術後は、「ミスド」に行く事は行くが、ドーナツを食べることが少なくなった。味覚異常で以前ほど美味しく感じなくなったこともある。喜んでいいのか甘い物があまり食べたくなくなった。甘味に苦味が加わると不味い。

口内炎が良く出来るので辛すぎる物も控える。カレーは病院のカレーを食べてから嫌いになった。吐き気をもよおす。一番食べやすいものは酸っぱい物だ。妊娠中は悪阻で食べられなくて、よくりんごを食べていた。今も酸っぱいみかんやりんごが食べやすい。それと砂糖を入れない酢飯がいい。

(以下次号につづく)